

理事会・総会の開催

5月11日、理事会と総会を開催しました。総会終了後の事業報告会では、松田美幸理事から3月3日に行われたシンポジウムの報告、マリ・クリスティーン副会長から2月にマレーシアで行われた第9回世界都市フォーラムの報告がありました。

● 麻生渡氏 名誉会長に就任

5月11日に開催された理事会で、麻生渡理事が当協会名誉会長に推薦され、承認されました。麻生名誉会長は福岡県知事の時に国連ハビタット福岡本部の誘致にご尽力されました。



国連ハビタット 福岡本部協力委員会総会

5月30日、福岡県知事公舎にて国連ハビタット福岡本部協力委員会総会が開催され、麻生名誉会長、マリ副会長、松田理事が出席しました。総会後の懇談会では、麻生名誉会長がこれまでの国連ハビタットと日本ハビタット協会の活動について話をされました。

ハビタットクイズ

ブラジルのお札にはアマゾンに生息する動物が描かれています。次のうちブラジルのお札に描かれていないものはどれでしょう。

1 ウミガメ



2 アオサギ



3 ベニコンゴウインコ



4 ゴールデンライオンタマリン



5 ピラニア



6 ジャガー



7 ダスキーグルーパー



答えは⑤です

ご協力いただきありがとうございます

2017年12月1日～2018年6月（敬称略・順不同）

みなさまのご支援ご協力により、多くの国と地域において、まちづくり事業を実施することができています。心から感謝申し上げます。

ご寄附 国際ソロプチミスト京像・博多・北九州一南・熊本一さくら・宮崎・香岐・佐賀一東部・八代、福岡空港ビルディング（株）、成田国際空港（株）、関西国際空港（株）、東京国際空港ターミナル（株）、北海道空港（株）、博多港開発・西部ガス共同事業体、中部国際空港（株）、那覇空港ビルディング（株）、新千歳空港ターミナルビルディング（株）、熊本空港ビルディング（株）、珈琲店 ストーンズ、シトリックス・システムズ・ジャパン（株）、（株）新橋スタンプ商会、住友商事（株）、（株）しげ吉、（有）岩田時計店、三井住友銀行ボランティア基金、ハート薬局、（株）CO-EVOLUTION、はやし内科クリニック、サンゴパン（株）、木村 真典、樋口 謙一郎、内田 俊隆、中武 喜久代、中村 勇、中川 雅文、中井 禮子、池端 直亮、大堀 由佳、川畑 博敬、小林 一、山際 則子、三浦 教子、原田 義信、菊池 ヨネ子、鬼頭 猛、花木 安市、久保 政彦、ハビタット福岡市民の会 会員、岡田 耕造、奥田 あずさ、伊藤 志朗、安藤 芳子、大野 博之、伊木 常昭、マリ・クリスティーン、山本 博子、篠原 大作、藤田 美江子、清水 雅子、大木 京子、太田 祥歌、牟田 慎一郎、末次 憲二、大石 カンナ、古川 裕里子、堀 寛紀、堀 保子

切手・書き損じハガキ等 浅沼 尚也、菊池 ヨネ子、白澤 和子、中野 穂積、住友商事（株）、成田国際空港（株）

ご協力いただいた方及び団体 ニューサンノー、（株）新橋スタンプ商会、ソフトバンクモバイル、ハビタット福岡市民の会、地球環境基金、ちよだボランティアセンター、シトリックス・システムズ・ジャパン（株）、シャドウミュージエ、（社）日本フィランソロピー協会、あおぞら銀行、（株）ジェーシービー、ザ・ボディショップ、JSCO、半蔵門駅前郵便局、こどもの夢ネットワーク、世田谷区、東京福岡県人会、アジアの女性と子どもネットワーク、今井 杏奈、樋口 謙一郎、中嶋 健治、平岡 宏一、高橋、花鳥 光男、塚越 勝美、長谷川 隆徳、小泉 邦夫、白浜 靖彦、平良 サキ子、佐藤 昭二、丹波 佐和子、加藤 弘子、藤村 美保、小野 雅恵、林 富子、堤 優子、小方 辰子、山際 則子、菊地 澄子、小家 進、野崎 美知子、吉野 和子、大島 政子、岡部 晃子、三島 康雄、北畑 ルミ子、宮本 知枝、佐藤 和恵、藤岡 美千代、錦織 保、中村 麻子、ハビタットフレンズの皆様

コイン仕分けにご協力いただいた企業 （株）ジェーシービー、シトリックス・システムズ・ジャパン（株）、三菱商事（株）、（株）電通

発行：認定NPO法人日本ハビタット協会（発行責任 篠原大作／編集責任 山本 博子）

〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-6-3 都道府県会館 5 階 福岡県東京事務所分室内 TEL／FAX：03-3512-0355
E-mail：info@habitat.or.jp／URL：https://www.habitat.or.jp

2018年7月発行



HABITAT 日本ハビタット協会

まちづくり通信 No. 33

日本ハビタット協会は、国連ハビタットと共に世界中の人々が安全で安心して暮らせるまちづくりを推進しています

2017年度 事業報告 みなさまのご協力に感謝申し上げます



ケニア 安全な水とトイレを世界中に

トイレはSDGsの様々な目標につながる「まちづくりの特効薬」です！トイレ環境に問題が多いケニアで、トイレ建設による笑顔あふれるまちづくりを進めています。



スマイルトイレプロジェクト

- 2017年10月までにホームベイ県カモロ村で、半分以上のトイレ普及率から97%の住民がトイレを使えるように
- 手洗い場所の普及率が31%→61%

学校での衛生環境改善事業

- 2017年6月ヴィヒガ県ムンザツィ小学校に給水設備建設
- 2018年3月男女各6基、計12基のトイレを建設

右：給水施設
左：新設トイレ棟



ラオス 暮らしと自然を守る植林

セニャブリー県
2村30名に接ぎ木等の技術指導
中学生310人の意識啓発



ラオス 教科書プロジェクト

ルアンパバン県 シエングエン地区
ポンサイ地区の小学校22校に1500冊の
ラオス語の教科書を寄贈



ラオス 1日3食プロジェクト

スアンルアン学校 744人
パクセン中学校 872人
アヒルと鶏の養鶏による給食提供



パートナーシップで目標を達成しよう

福岡県 九州北部豪雨支援

福岡支部と連絡を取り、朝倉市の女性や子どもに防犯ブザー 300個と化粧品を届けました。また、母子や女性の避難所である「朝倉災害母子支援センターきずな」の支援を行いました。化粧品は THE BODY SHOP からの提供です。

スリランカ スリランカ洪水支援

スリランカ出身の元国連ハビタット職員ラリス氏と協力し、パラドゥワ村に、マットレスや蚊帳を届けました。清掃や家の再建に職を失った人を雇用し、生活再建のため、換金作物モリンガを植えました。

国内外で発生した自然災害に対して、パートナーシップを活かした支援活動を実施しました。



宮城県 復興の桑プロジェクト

桑の葉パウダー茶「KUWA CHA」とそれを使用した「KUWA CHOCO」の販売を行いました。KUWA CHOCO は、宮城県内の子どもの支援を行っている「こどもの夢ネットワーク」と協力し、ラッピング作業等で、児童福祉施設の若者を雇用しています。売上金の一部で、児童福祉施設を退所した若者へ住宅提供などを行っています。





ケニア スマイルトイレプロジェクト

持続可能な開発目標の第6の目標として、「すべての人々に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する」が掲げられています。当協会は、清潔なトイレは貧困の削減、全ての人の健康、教育機会の提供、ジェンダー平等につながる「まちづくりの特効薬」であるとの考えから、ケニアにおいて、トイレ建設によるより良いまちづくりを進めています。

ケニア西部ホーマベイ県のカモロ村では200世帯中51世帯にトイレがなく、その他の家庭においても機能していないトイレが多数あったため、2016年8月から住民主導によるトイレ建設事業を開始しました。

住民の衛生意識の変革をもたらすワークショップ、住民自身により建設可能なトイレの導入、トイレ建設費を住民が負担できるような農業技術指導による所得向上に取り組んだ結果、2017年10月までに、97%の住民がトイレを使用できるようになり、手洗い場所の普及率は31%から61%に上昇しました。

さらに、2017年の世界トイレ・デーにあわせて、農村保健ボランティアが、トイレの重要性を知らせるためのキャンペーンを積極的に行いました。地域住民の自主的な広報活動が、県を動かし公衆トイレを2基設置することにもつながり、行政までも巻き込む大きな力となりました。

住民の自立心を養い、持続性を有するこのプロジェクトは、JICAの草の根事業に採択され、今後大幅に事業規模を拡大して展開していきます。

住民の声

プロジェクトのおかげで、自分の家にトイレを持てるようになりました。今までは毎日近所までトイレを借りに行っていたので、とても大変で、夜は使えず、朝まで我慢していましたが、今はいつでも自分の家のトイレが使えています。

Ms. Dani Nyaugenya



農業技術支援や防護ネットの支援により、家畜の被害がなくなり、おかげで安心してケール等の野菜を育てることができています。週 200 ケニアシリング(日本円で約 200 円)の収入にもつながり、お金を貯蓄して、トイレを建設することもできました。

Ms. Min Amori



ラオス 環境教育プロジェクトが始まりました

ラオスのルアンパバン県では、2012年から水源の森を守るため、植林を通じた環境保全を進めてきました。パクウー中学校は、当初からこのプロジェクトに参加し、子どもたちが環境を学ぶワークショップと、種からの苗木育成に取り組んできました。

育てた苗木を校庭にも植えたため、それまで大きな木がなかった校庭に、たくさんの木が生い茂り、生徒たちが木陰に集まり、おしゃべりや宿題をするようになりました。

今年度からは、パクウー中学校、シエングエン中学校と協力し、生徒が、より自然環境と自分たちの生活の関りを学ぶことができるよう環境教育プロジェクトを開始しました。

5月に、教材開発に参加したパクウー中学校の先生からコメントが届いています。



パクウー中学校の先生から

これまでのプロジェクトで、苗木を育て、学校やその周辺の自然環境がとてもよくなりました。今では先生も生徒も、環境を守ることがとても大切だと実感しています。でも、ラオスには、まだまだ他にも環境汚染やごみ問題など、たくさんの環境問題があります。環境教育プロジェクトにより、子どもたちが環境についてきちんと学び、対処できる力をつける仕組みを作っていきたいです。



第9回 世界都市フォーラム

副会長 マリ・クリスティーン

2月7日～13日にマレーシアのクアラルンプールで、国連人間居住計画(ハビタット)主催の「第9回世界都市フォーラム」が開催され、私も参加しました。今回の世界都市フォーラムのテーマは「Cities 2030, Cities for all - Implementing The New Urban Agenda(2030年の都市、みんなの都市ニュー・アーバン・アジェンダの実施)」で、163ヶ国からの23,000人ももの参加者が、より良いまちづくりをしていこうと集結しました。

1月に新しく就任されたマイムナー・モハメド・シャリフ事務局長は前職のペナン島市長時代にジェンダー平等のまちづくりに大きな力を発揮した方です。ニュー・アーバン・アジェンダとSDGsの達成に向け女性代表らしい視点での取り組みをスタートされるようで、参加している各国NGOの女性や若者たちもエネルギー溢れる動きを展開していました。

国連ハビタットはSDGsの目標11の「住み続けられるまちづくりを」の達成のために様々なプログラムを実施しています。

SDGsはそれぞれの目標を複合的に実施することで、より効果的に持続可能な世界を作り出していけるものです。国連ハビタットはこれまで、女性に優しいまちはずべての人に優しいまちであるとの理念のもと「女性に優しいまちづくり」を推進してきました。まちづくりの中にジェンダーの視点を取り入れることは大変重要で、SDGsの達成には欠かすことのできないものだと思います。紛争、災害、気候変動と課題は山積していますが、より安全で安心できるまちづくりを推進するために、私も力を尽くして参りたいと思います。



SDGs と持続可能な まちづくりシンポジウム

2017年に国連ハビタット福岡本部設立20周年を迎えたのを記念し、2018年3月3日、アクロス福岡円形ホールにおいて、「SDGs と持続可能なまちづくりシンポジウム」を開催しました。

当協会麻生渡理事の主催者挨拶に続き、是澤国連ハビタット福岡本部長からご挨拶をいただきました。招待講演として、当協会がケニアで実施している「スマイルトイレプロジェクト」の現地協力団体のリーダー、Javan Okello 氏がケニアが抱える衛生問題とトイレの重要性について講演を行いました。

トークセッションでは、マリ・クリスティーン副会長がファシリテーターを務め、パネリストとして、当協会理事の松田美幸氏(福津市副市長)、前国連ハビタットバンコク事務所の佐藤摩利子氏(現国連人口基金東京事務所長)、認定NPO法人地球市民の会理事長の大野博氏を迎え、自治体、国連機関、NGOそれぞれの立場から、SDGsに対する取り組みについて活発な意見交換が行われました。

参加者一人ひとりが、SDGsについて、市民として、何ができるかについて考える機会となりました。現地毎日新聞及び朝日新聞で大きく取り上げられ、RKB毎日放送でも放映されました。

